

第 74 号

発行所 〒157-8560

東京都世田谷区成城1-13-1

東京都市大学附属中学校・高等学校内

電話 03-3415-0104

発行責任者 安藤 友二

編集責任者 川鍋 勝弘



東京都市大学附属中学校・高等学校〈同窓会ホームページ〉

<http://tcu-kasiwa.org/>

キャリアスタディ2021を振り返って



進路部 相馬 武

同窓会のご協力のもとスタートした本校のキャリアスタディは、今年度で13回目を数えるまでになりました。今年度も事故なく無事に終わることができ、ご協力いただいた多くの皆さまに

感謝申し上げます。

先日、立ち上げ当初の資料に目を通す機会があったのですが、順を追ってじっくり見返すにつれ、本校教員と同窓会の皆さまが熱い議論を重ねながらこの行事を「育ててきた」ことが垣間見えたとともに、「未来を担う生徒たち・後輩たちのために」といった想いがキャリアスタディの充実につながっているのだと改めて感じている次第です。

さて、今年度のキャリアスタディは、コロナ禍の収束が見えない中でのスタートとなり、「企業研修」については、昨年3月の計画段階で実施を見送る判断を致し、実施できる取り組みを慎重に見極めつつ、多くの皆さまのお力添えをいただきながら実施プログラムの充実を目標に進めてまいりました。

「考えてみよう！30歳の自分」はそのうちの一つで、「15歳の中学3年生が30歳の自分を想像したとき——現在の自分と将来になりたい自分をどのように結びつけていくか」について、30歳を迎えるかつてのムサコー生が15歳の後輩たちに向けて自らの経験を丁寧に語りかけてくれました。とりわけ「中高生の時にやっておけばよかったこと（後悔）」と「これから成長する上で大切にしてほしいこと」については印象深く残った様子で、「成績がよいだけではダメだと気付いた。もっと積極的に友達と話をコミュニケーション力を高めたい。」「実際の社会では思っている以上に英語の力が大切だと気付かされた。苦手だけど頑張っていきたい。」といった前向きな感想が多数みられました。年齢が離れていても「アルマ・マタ（我が母校）」を介したつながりは、在校生に大きな影響を与えるものだ改めて認識いたしました。加えて、講演を快く引き受けてくれたかつての教え子たちの成長した姿も同時に感じる事ができ、個人的には幸福感に包まれたひとときとなりました。

職場体験の取り組みは公立私立を問わず多くの中学校で実施されておりますが、卒業生が集う同窓会が積極的に関わって進めていく本校の形態は全国的にもかなり珍しいことです。キャリアスタディに関心を寄せる受験生の保護者も年々増えており、本校に関わる多くの人々に認知される取り組みとなっております。今や、キャリアスタディは本校の教育を支える大きな柱のひとつであります。

思春期を迎える中学3年生に「保護者」と「教員」、そして「同窓会の先輩」も加わって、多くの大人が関わりな

がら生徒の成長を皆で見守る——そんな形でキャリアスタディを更に充実させていくことができれば素晴らしいのではないかと考えております。今後とも同窓会の皆様の熱いご支援をよろしくお願いいたします。

キャリアスタを終えて

中3学年担当 山本 徹



昨年度に続き、今年度もコロナ禍でキャリア・スタディを実施することになりました。このような中で今できることを模索していこうという方針のもと、キャリアスタの委員の方と打ち合わせを入念に重ねて、行事を進めていきました。結論を先に言ってしまうのですが、このキャリアスタが中3生にとって大変有意義であったと確信しています。この場をお借りして、キャリア・スタディ委員長の小泉達雄先輩をはじめ、他の委員の方やOBの方に深く感謝を申し上げます。

以下では、それぞれの行事における生徒の感想（ほんの一部）を紹介します。

<業あり先生> (6/19実施)

「世の中で必要とされている人に！」夢・大志を抱こう！（宇田川先生）に参加して

「社会・世の中で必要とされる」ということが個人にとって幸せな人生であり、それを得るために自分を鍛え磨くというお話を聞いて、どうして今学んでいるのかという私の疑問が晴れたと思った。

また、大切なのは、一つのものに集中して取り組み、すぐに投げ出さないことと、様々なことに挑戦することであることを聞いてこれはすべてのことに共通すると思った。

<考えてみよう！30歳の自分> (9/4実施)

僕はこれからの学校生活で勉強だけではなく、コミュニケーション能力も高めていこうと思います。これから自分たちが社会に出て、自立して生活することになったら必ず「コミュニケーション能力」が必要になるということを今回のキャリア・スタディで学びました。

コミュニケーション能力を高めていく上で、必ず絡んでくることは人との対人関係です。その人との対人関係を深めていき、礼儀や積極的に行動することなどを学んでいきたいです。なので、これからの学校生活では友人とのコミュニケーション能力をもっと高めていきたいです。

<先輩に聞いてみよう64> (11/20実施)

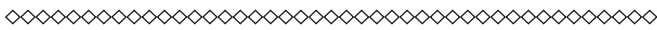
“スポーツ放送の舞台ウラ”と“メディアの情報リテラシー”（山下先輩）に参加して

インターネットは超速報性、同時性があり、マスメディアの中で最も良いものだったと思ったが、信憑性に乏しかったり、責任の所在があいまいだったりして、うかつに信じてはいけないのだと改めてわかった。情報を受け取った時、本当に正しいかどうか自分で調べることが大切だったと思った。『そ・う・か・な』

(そ) 速断するな (う) うのみにするな (か) かたよ
るな (な) 中身だけ見るな

キャリスタ担当である私があればこれ述べるよりも、この3人の感想を読めば、前述の理由がわかっているだけだと思います。3人の選択は無作為とまでは言えませんが、よく書かれているものばかりを意図的に選んだわけではありません。

最後に、中3生に伝えたいことがあります。キャリスタという行事はこれで終わりますが、自分探しの旅は始まったばかりでこれからもまだまだ続きます。5月に実施したキャリスタ・スタート集会で、私が『自己実現』（＝①人生における目標を自らが定める ②その目標に向かって努力を重ねる）について話したことを思い出してください。将来の目標を定め、継続してビジョンを考えることが何より肝要です。とにかく、充実した高校生活を送ることを強く望みます。



先輩に聞いてみよう64

この企画は、単に講義の話を聞くだけでなく、生徒が人生の先輩であるOBに聞いてみたい事を対話できるスタイルにする事を狙っているため、会の名称を「先輩に聞いてみよう」としています。

中学3年生には難しいとも思われるテーマについても、ほとんどの生徒が強い関心を示し、自分の意見や感じた事を感想文に表してくれました。

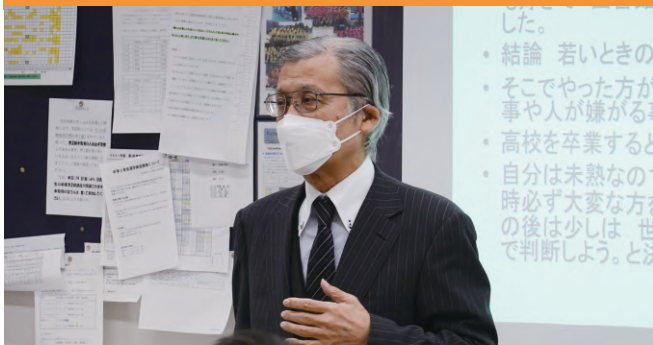
以下に、今回協力して下さったOBの講義に対しての生徒の感想文を紹介させていただきます。

キャリスタ委員 37期生 小林隆之

9期生 鈴木 威一 先輩

株式会社 エグゼック 取締役会長

演題：海外でいっぱい仕事をして、良かったこと、悪かったこと



生徒の感想

やはり人に役立つことをするにはある程度の苦勞をするべきだと思います。最近は苦勞することよりも樂をすることをずっと考えていて、特に何もできなかったの、これからは身の回りにも氣を使っていきたいです。

それに、今は英語ができず、特に人と話すというのは苦手なため、少なくとも相手に自分の主張を伝えるつもりで話したり、周囲の雰囲気のを和やかにできるようにしたいです。

16 期生 小林 英世 先輩

株式会社 交文社 代表取締役社長

演題：これからの自動車社会(自動運転・電動化)



生徒の感想

自動車が100年に一度の大変革期を迎えたという話を最初に聞き、この話にとっても興味を持ちました。CO2排出削減に向けたカーボンニュートラル宣言という日本のとりくみにより自動車開発でいろいろなことが行われていることに非常に興味をもち、もっと掘り下げてみようと思いました。又、出版社からみた自動車に関する技術行政という視点は私は全く想像もしたこともなかったので自動車や技術系にすすむ僕としては新たな視点を手に入れられたことをうれしく思っています。ありがとうございました。

22期生 福井 利昌 先輩

福興システム株式会社 代表取締役

演題：ものづくり.起業の勧め



生徒の感想

自分の興味を持った分野をつきつめて、現在の会社を起業しているところに憧れを感じました。

起業するにあたって自分の得意なことは何か、社会は何を求めているかを知るのが大切だと分かりました。また、「何事も出来ない」と決めつけず、まず、挑戦してみる」という考え方に今の自分にも通じるところがあると感じました。

本日はありがとうございました。

22期生 小泉 達雄 先輩

株式会社 アストロノーツ 代表取締役

演題：危機管理について、戦後の日本とこれからの課題、エンジニアとは**生徒の感想**

私は元々安全保障に興味があったため、危機管理の話はとても興味深かった。また、科学技術といった技術系に対して投資することの大切さが分かった。また、この事を受けて私は政府は、目の「金」になる技術ではなく、何十年、何百年先のために、科学技術に対して投資すべきであると考えた。また、バブル崩壊後、停滞している経済・政治を私たちの世代が立ち上がり、改善すべきだと考えた。

22期生 福田 光秋 先輩

日産工機株式会社 総務人事部 採用担当主管

演題：100年に一度の大変革を迎えている自動車業界を知る & なぜこの世界に飛び込んだか！**生徒の感想**

地球温暖化について最近よく考える機会があるが、平均上昇が2℃以上になると抑制が効かないということを教えて頂き、とても恐怖心を覚えました。改めて考え直す必要があると思いました。2035年までに日本は、電動化が100%になるということを聞き、企業側は地球についてしっかりと考えているので、自分たちのできることを見つけ行動しなくてはいいと思いました。EVにも良いところばかりではなく、精密な技術で作っている為やはりコストがかなりかかってしまうとのこと。EVの車が世の中に普及していくにつれ、充電するスポットも増えていくだろうし、国民に関心を持ってもらうことが一番大切なのではないかと思いました。どんな便利なものでもデメリットはあるので、そこをいかに小さくする技術が難しいのだと考えさせられました。

22期生 山下 博一 先輩

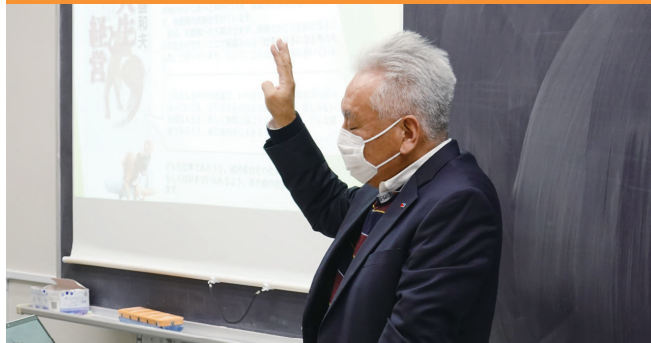
NHKグローバルメディアサービス スポーツ事業部 統轄部長

演題：“スポーツ放送の舞台ウラ”と”メディアの情報リテラシー”**生徒の感想**

今回、お話を聞いて情報に対しての考え方が変わりました。テレビやネットなどのマスメディアが流す情報は全て作り物だから必ず意図が含まれる。だから、そこには作った側の意図がある。マスメディアが流す情報が全てではないと思って自分で真実かどうか確認することが大切だと思いました。また、オリンピックの撮影の裏側を聞いて、テレビカメラの技術の高さや放送の決め方などを知って、より一層テレビなどのマスメディアに興味を持ちました。今回は、わざわざ来ていただきありがとうございました。

22期生 矢崎 克実 先輩

有限会社あおい運輸、トップアローズ株式会社 代表取締役

演題：出会った「仕事」を好きになる。**生徒の感想**

今日は題名通り、仕事を好きになる方法について教えてもらいました。先輩のお話のおかげで親が一生懸命働いて生活に不安を感じさせないことがどれだけのすごいかを知りました。

たまたまこの紙を書いているのも勤労感謝の日なので、親に感謝を伝えました。あの日で仕事というものか見方が変わったと思います。ありがとうございました。

33 期生 立野 慶 先輩

医療法人社団ユニメディコ 理事長 医師

演題：医師になるためには？

**生徒の感想**

今回のお話を聞いて、ハッとさせられることが多いと感じました。自分は医者そのものになりたいという訳ではないのですが、死を意識した上で人生など色々なことに向き合っていかなければならないというのは、医者でなくとも全ての人間に通じる大切なことだと思いました。また、何のために生きていくかという義ループワークを通じて、自分の目的を達成するためにこれから生きていこうと考えました。その自分の目的達成のためには受験科目は当然ながらその他の科目や学校行事に取り組んで、そういったひとつひとつのことをやって終わりではなく、やった上で自分の糧にできるようにしていきたいです。

37 期生 木下 弘 先輩

ドゥカティジャパン株式会社 アフターセールス部エリアマネージャ

演題：○くなるな、☆になれ…

**生徒の感想**

自分はまだ将来の夢が見つかっていなかったり、物事を考える時、他人軸で行動しているため、もっと自分軸で自分の他人に負けない分野を探していこうと思う。

また、好きなこと、得意なことを伸ばそうと思いました。そして、すべてが上手くいくことなんてないため無理に考えたり決めこんだりするのではなく、時には流れや自分のやりたいことに身をまかせることも大事なのだと思いました。

37 期生 黒田 健一 先輩

清水建設株式会社 設計本部企画管理部主査

演題：あなたは、あなたの歩んできたもので、できている。

**生徒の感想**

建築の仕事は自分一人で出来るものではなく、多くの人が携わってできているものだとなった。それにあって、コミュニケーションをとること、あいさつをしっかりとすること、相手の気持ちを考えて行動すること、これらは学校生活においても大切にしていきたいと思いました。

建築にはどの敷地にも過去があるため、カッコイイ建物をつくるだけでなく街のことを考えた建物にすることが大切。例えば、環境を配慮するために木を使っていると分かった。話を通じていろいろ勉強になりました。

ありがとうございました。

38 期生 吉田 達也 先輩

株式会社 With Pet Family 代表取締役

演題：将来リーダーになることを目指している人へ

**生徒の感想**

お話を聞いて、まず感じたことは、行動の大切さです。リーダーになる以前に人として、大きな器、成長するために、まず行動することが大切だと思います。そして、心に残ったのは、人に親切にすることで、人々をまとめることができるということです。これを軸に、まず友達を大切にすることを心がけて生活していきたいです。